

令和4年度 第1回新潟広域都市圏ビジョン懇談会 議事録

- 日 時：令和4年7月27日（水）午前10時から午前11時15分まで
- 会 場：新潟市役所本館3階 対策室3
- 出席委員：上村都委員、大島毅委員、金子春子委員、斎藤敏之委員、関原貢委員、高井和江委員、中山正子委員、横尾良輝委員
（三原茂委員、山賀昌子委員は欠席）
- 事務局：政策企画部 小野統括政策監、大坂政策監、川上課長補佐、長谷川主幹、本田副主査
- 報 道：2社
- 傍 聴 者：0名

○ 議題（1）

2021年度連携事業の実績報告について

大坂政策監 【資料1】 【資料2】 説明

（意見・質問）

関原委員

- 2021年度の実績で59万2,645人と、現状値の2016年に比較して2.9%ほど伸びている。一般的には人口減と高齢化の中で生産年齢人口が減っているという中で、2021年度だと数値をどの段階で取られたかわからないが、コロナであった中でこれだけ従業者数が伸びているのはなぜなのか。例えばどういう業種とか、男女別とか、どういう年齢層が増えているのか、というのが分かれば、非常に興味深い数字なので、もし分かれば教えていただきたい。

大坂政策監

- 今回は国の速報値ということで、どういう状況でこうなったかというところまでは、把握できていないという状況である。今後、確定値など国から発表があった段階で確認させていただき、分かった時点で委員の皆様には改めてお伝えさせていただければと思っている。

大島委員

- 今の件に関して、推測で恐縮だが、従来60歳、定年で就業をやめていた皆さんが今現在は定年延長等の努力義務で、いわゆるシニア社員と呼び方は様々だが、就業を続けておられるというような影響があるのではないかと考えているので、お調べいただく際には、従業者の年齢構成など、その辺も見えていただければと思う。

大坂政策監

- 今ほどのご指摘も参考にさせていただきながら、国の発表数値をさらに精査をして、内容を把握していきたいと思う。

○その他

新潟広域都市圏ビジョン懇談会 今後のスケジュールについて

事務局【参考資料1】 説明

未設定の成果指標（基本目標）について

大坂政策監【当日配布資料】 説明

（意見・質問）

金子委員

- 観光入込客数について、2020年については、このとおり約60パーセントであった。ただ売上の話ではなく入込の話。今年度の状況で申し上げますと、80パーセント程度。ここへ来てまた感染が広がっているが、県民割なども今まで通り出ているので、今回は行動制限がないということだが、少しずつキャンセルはあっても、まだ大規模なキャンセルはない。また、本当に新潟県の皆さんは非常に早いというか、増えると、途端にお客さんがついてこなくなるという状況だが、私たちの見方としては、2019年度の8割ぐらいいくのではないかと、という期待感を持っているので、このあたりで目標値を定めていただく方がよいのではないかと思う。何にしても目標値、数字というのは一定の方向性を生み出すためには、必要と思う。

中山委員

- 2024年度の目標だが、立てるべきである。立てずにやることはあり得ないと思う。来年2023年、世界遺産登録佐渡金銀山を目指しているのだから、その恩恵に新潟市もあずかるべきだと考える。どのように新潟市として、世界遺産と絡めて観光客を増やしていくのか、ということ等も含めて検討して、数字をあげるべきだと考える。もちろん新型コロナが今後どうなるかわからないが、平時に戻った場合にどうするかということで考えていかないといけない。新型コロナの影響があるからわからないと言っているのでは政策とは言えないと考える。金銀山が登録されたらこうなりたい、金銀山がもしダメであったらこのぐらいいく、ということ分割して考えていく必要があるのではないかと。

大坂政策監

- おっしゃる通りだと感じている。2月には案という形で、こちらで目標値を設定させていただいて、ご議論いただければと思っている。またタイミングが悪く、9月議会との関係でビジョン懇談会がこの時期の開催になった。観光入込客数と新潟駅の1日平均乗車人員数は8月には出るということだったが、その前の会議開催で大変申し訳なかった。その数値もまたお示ししながら2月の時点では、目標値についても改めてまたご議論いただければと思っている。

高井委員

- 高次の都市機能の集積・強化の一つに、高度医療サービスの提供として、救急医療がある。来年度、県央地域にも県央基幹病院ができるが、医師の働き方改革やコロナ禍の中で救急医療体制が非常に厳しくなっている。令和6年度まで設定されている市民病院での2次、3次救急の占める割合50パーセントという目標は既に達成されているので、これをただ続けるというのはあまり意味がないのではないかと思う。簡単に数値として設定することは難しいと思うが、今後圏域での救急医療、特に2次救急体制の維持・充実が非常に重要である。1番は救急車が到着してから病院に受け入れるまでの時間が非常に長いという、医師不足も日本一ということもあるが、そういった課題について、今回の第2期は難しいとしても、将来的にそういった目標設定をしていただくと、市民に安心な救急医療サービスの提供ができるのではないかと思う。

それから、少し飛躍した話になってしまうが、再生可能エネルギーの開発に関して、勉強会や事業化の検討が挙げられているが、既に新潟県では令和元年に第1回洋上風力発電導入研究会が立ち上がっている。国の他に市町村としては新潟市、胎内市、新発田市、金融機関として第四銀行さんも含まれていて、洋上風力発電の導入拡大に取り組んでいくという国の方針は明確であると思う。特に新潟県は日照時間が短く、広い海岸もあり、勉強会や研究会というレベルから、本当に実行するという決断をし、やるためにどういう課題を解決しなければいけないかなど具体的な議論が必要だと思う。特に洋上風力発電設備は部品数が多く、関連事業がたくさんあるため、経済的な波及効果が期待される。新潟市には新幹線をはじめ鉄道車両や飛行機部品を製造する技術も持つ企業もあり、地元産業を含めた関連産業の発展が期待できる。一市民の立場から、地球温暖化対策は待った無しの問題だと思うので、その進捗状態が気になるところです。

それからもう1つ、食品のブランド力強化に関して、展示会、首都圏に向けた見本市の話も課題に挙がっているが、今回カナダで2年ぶりに開催された国際見本市に、福島県のお酒とか、山形県の和牛が出されていた。先ほど、金沢の国際スポーツの話が出たが、新潟県のお米やお酒、果物は、本当にいいと思っているが、外に向けた活発なプロモーション活動が少し弱いのではないかと思う。ここに載せられている地道な活動もちろん大事だが、常にもう少し大きな事業にも目を向けるような視点が必要ではないかと思う。

大坂政策監

- 私どもの方で把握している範囲でお答えさせていただければと思う。まず1点目にお話いただいた高度医療サービスで、今ご指摘の通りの50パーセントという設定をしているが、実績としては53.8%という実績があがっている。なかなか目標値、ゴールを変えるというのでも厳しい部分もあるが、やはり実績が目標を超えていくというのがデータとしてはっきり

示されれば、次期の都市圏ビジョンではそこを踏まえて、50パーセントではなく、さらにまた上の段階を目指すということで、設定できるのではないか思っている。委員のご意見を担当部局に伝え、今後の設定に活かしたいと思っている。

2点目の再生可能エネルギーについて、ビジョンの中で位置づけてる部分は、主に新潟スワンエネルギー、再生可能エネルギーの発電事業者があり、そこを活用した取り組みということで、勉強会、それから事業化の検討を環境部局で進めていくと聞いている。洋上風力発電については、設定したゾーンとして、村上や胎内、県北に加え、新潟市もエリアにはなっているが、漁業権や周辺住民の皆様の理解ということもあり、事業化に向けたハードルは高いと聞いているが、また何か情報があればご披露できればと思っている。

最後に食品のブランド化について、これは新潟県民の課題というか、PRベタという部分もあるのかと思うが、例えば、白根のキュウリをキュウリ王子という風にネーミングをしてプロモーションをかけたり、あるいはスイカや枝豆などの農産物も、事業者レベルではネーミングを工夫したり、あるいは新幹線を使って首都圏に送るなどというようなこともやっている。こちらについても担当部局始め、JAの皆さまなど、非常に頑張っているところなので、温かく見守っていただければと思う。

横尾委員

- 確かに新潟はどこに行ってもコメと酒は聞くが、それ以外はなにがあるかという話になって、枝豆も全国1位ぐらい作っているが、県民が消費するのが多かったり、あるいは越後姫などのブランドはあるが、なかなか運びづらかったり、いろいろな要素があって、枝豆も新幹線でそんなこともやっているし、全農あるいは単独のJAで、いろいろな形でCMをやったり、いろいろなこともやっているが、まだまだかなと思うので、また頑張っていきたいと思うし、特にこれに関して、先ほど世界遺産登録という話があって、その目標値設定も私も賛成ですし、ただコロナ禍の中でどうなったかということもある。先ほど報告があった佐渡汽船との関係で、佐渡はこの圏域に入っていないが、それがどのような形になって協力していけるのか、あるいは先ほど話のあった佐渡になかなか宿泊施設が減ってきているという話も聞いていて、形態も変わってきているので、それをどのようにお互い運んで、発展していけるかという観点が必要なので、そんな形でも是非ここに書いてある合意した協議会を設立したということなので、農産物を回してやっていただければと思う。

もう1つ、新潟駅周辺の整備をして、高架化などはもちろんいいのだが、2023年度に広場が完成し、万代広場などいろいろな形で、先ほど事務局から話のあった金沢の例では、駅周辺でいろいろな施設があると思うので、真似するわけではないが、新潟版で何かできないかなということが、どんなふうに検討して、あるいは広域圏でどうしていけるのか、あるいは新潟市がどういう風にしてくれるか、その辺を是非お願いしたいなということと、JAも合併をしたりして、この4月から「新潟かがやき」というのができて、12市町村が絡む中の6

市町村の全域や一部を含んだ中の「新潟かがやき」となるので、JAも12市町村、県内の農産物など、なにかできれば、そんな形が整ってきているので、そこら辺も含めて、検討いただければありがたいなと思っている。

大坂政策監

- まず佐渡の関係で、この広域都市圏ビジョン、国で言うところの連携中枢都市圏を組む自治体、新潟で言うと新潟市が中心市になるが、関係性で言うと、通勤通学割合が10パーセントを目安と規定があり、ただそれは目安なので、新潟広域都市圏の場合は5パーセントを要件として、近隣の11市町村と連携協約を結んで取り組んでいるという状況で、残念ながら佐渡が5パーセントに満たないということになっており、この広域都市圏というフレームでは協約を結んで進めることができないという状況ではあるが、今年6月の末に、従前から佐渡市と新潟市の広域観光協定というものがあり、2004年くらいに結んだものがあったのだが、中山委員からもお話があった、佐渡金銀山の世界遺産登録を見据えて、6月に佐渡市と新潟市で改めて、これからも取り組んでいくということで締結し直したので、観光中心に、交流人口部分では今後、世界遺産登録を見据えていろいろな取り組みが活発になっていくものと思っている。また、昨年11月に佐渡市長が新潟市役所で講演をいただいたが、佐渡市の渡辺市長も世界遺産登録を登録した1年、2年は非常に観光客が賑わうが、だんだん右肩下がりになり、それでは意味がないということで、リピーターを増やして、世界遺産登録をきっかけに、継続的に佐渡に、今後コロナがどうなっているかわからないが、日本国内のみならず、インバウンドも含めて、たくさんの方からお越しいただきたいというようなお話もされておられたので、新潟市と佐渡市の協定をきっかけにしながら、今後取り組んでいきたいと考えている。

新潟駅の関係だが、こちらも整備は着々と進んでいるが、また2月以降のこの懇談会の中で、整備状況や今後の見通し等について、皆様にご案内できるものがあればご案内したいと思っている。

小野統括政策監

- 1点だけ補足として、都市圏ビジョンの考え方としては資料1の役割のところにもあるが、①②③とあって、経済の成長、都市機能の集積強化というもののほかに、生活関連サービスをお互いに補完し合ひましょう、というものが、具体的には、図書館をお互いに使い合うというような、行政サービスがフルスペックでない中でもお互いで使い合ひましょうというものが、また1つ大きな柱になっている関係で、今、説明があった佐渡からの通勤がないことや、生活関連でなかなか連携がしにくいところもあり、要綱上、通勤を1つの要件にしながらやっていくということで、個別の、例えば佐渡とは観光の部分で連携していこうということであれば、その分野に限った連携も他の市町村とも協定を結びながらやっ

ていくということである。ただ私の記憶が正しければ、佐渡は4000人分ほどしか宿泊施設がないということで、やはり世界遺産に登録された際には、新潟市も宿泊の役割とか、新潟に限らず月岡温泉とか弥彦温泉や岩室温泉という部分も含めて、また広域で、別な形で観光という形で連携していきたいと思っている。

大島委員

- 冒頭、金沢市の話の中で、国際的なスポーツというお話があったので、それに乗じて、一市民として申し上げたいのが、新潟の場合で言うと、やはりビックスワンだと思うのだが、県の施設であるということで、新潟市としてどうこうできるかどうかというのは分からないが、所在地が新潟市内ということで、ここからは私が高校まで陸上部だったので、その目線がかなり入っているということをお含みいただいた上で、日本国内の陸上競技場で、国際ランクでいわゆるSクラスという最上級のクラスの陸上競技場が、国立がどうなるか分からないので、国立は置いといているのだが、大阪のヤンマー長居スタジアムという競技場だけである。ビッグスワンもかつてはSクラスであったので、2020年に日本選手権が開催されたりなどもあったが、維持費の問題でSクラスをやめて、Aクラスに自主的にランクを落としたというのを新潟日報のスポーツ面で拝見した記憶があるが、確か維持費がSクラスだと年間500万円ぐらいなのが、Aクラスだと200万、300万ぐらいと記憶しているので、正直言って、それであれば新潟市も負担するからSクラス維持しましょうという、あるいは、県の陸連も100万円出しますとか、そういう議論にならなかったのかなというのが非常に残念で、ご承知の通り、アルビレックスRCも日本チャンピオンが出ているような状況もあり、ぜひSクラスに復活して、日本選手権とか来てもらえると、トップクラスの選手を生で見る機会を、チーム、県民、そして子どもたちにもぜひ見てもらいたいと思うし、最近だと3日か4日ぐらい開催するので、宿泊も結構出てくるかなと思う。田中のぞみ選手をご存じだと思うが、2020年の時に南口でシャトルバスを待っていたときに、軽やかに走ってくる女子がいて、いい走りしているなって思ったら、田中選手でしたということだった。そんなこともあったりしますので、ぜひご検討いただけると嬉しいなと思う。

それともう1点、食のブランド化等々のところの話について、これも皆さん色々なご意見があると思うが、今までもお話があったように、お米だとか、お酒だとか、越後姫だとか、枝豆だとかという、常々私は思っているが、そういう単品ではなく、おそらく新潟の食材って1つ1つクオリティはものすごく高いものがあると思っており、例えば、今の時期だと、朝ごはんにごはんとナスの味噌汁ときゅうり漬があれば、多分日本一の朝ごはんになると思うので、単品のブランディングっていうよりは、パッケージでプラスするみたいなのところも考慮してもらえるといいかなと思う。

齊藤委員

- 圏域内全体の生活関連サービスの向上ということで、公共施設とか、図書館とかの相互利用をされているということが書いてあるが、この域内で市町村との、新潟市と隣接する行政区との交流が、この取り組みによって生まれたかどうかということ、新しい交流が生まれた、生まれ変わるなら、移動のための何かサービスが提供できるかもしれないと思ったので、隣接している行政区と、例えば図書館であれば、提携を結んでいる市町村からどの行政区に行っているかということがわかるのかと、その辺が知りたいなと思い、そのようなデータがあったら、聞かせていただきたい。この取り組みによって、この域内の人流がどういう風に変ったのか、知りたいなと思った。

大坂政策監

- 大島委員のご意見については、担当部局に伝えさせていただく。
齋藤委員のご質問について、登録した件数は把握しているが、その後どの方がどのくらい利用したかということまでは押さえていないということで、申し訳ないが、そういうデータが現状ない状況である

金子委員

- 先ほども観光入込客数の中で、実はお客さんというのは、観光だけではなく、大会、いわゆる学術大会というものや、最近ではスポーツ大会が非常にお客さんの中で多い。近隣の市町村も施設を随分整えているが、その市町村で宿泊ができなくなると、やはり新潟市に行っていると。これから長岡花火があるが、おそらく長岡花火の日は近隣の温泉地はいっぱい、新潟市もいっぱいだと思う。燕三条の近隣もいっぱい、そういった大会や、いわゆる入込客数というのは、実は観光客ではなくスポーツ、それから新潟市でやっているシティマラソンなどもある。マラソンは今すごいブームだし、それからサイクリングやいろいろなスポーツがあり、県では今それが合体した。1つの観光ということではなくて、観光文化スポーツ部ということで、1つのお客さんを新潟に持ってくるためのツールの1つということで、一体化しているというのが現状である。先ほど大島委員がおっしゃったように、やはり施設をよくすることによって、お客さんにたくさん来てもらえるし、そういう大会が開催されると思う。それからやはり歌手の皆さん、今の若い方のそういう人たちが来ると、私どもの方でも把握しているが、新潟市はもういっぱいになります、ということで、他の宿泊施設を紹介してくださいというようなことがある。若い歌手の皆さん、アイドルの方たちが来るといっぱいになってしまうということにはなるので、いろいろなことがいわゆる観光客だけではないという目線で、入込客というものを捉えて行く時代なのだと思うし、新潟市という立場になれば、やはりそれを誘致してくるようなことを積極的にやっていくことによって、入込客は増えるのだろうと思う。

それからもう1つ、食品のブランド化だが、県もすごく一生懸命やっている。ある旅館の話で、新潟県のナスってすごい種類があって、ナスだけ出している旅館があります。ナスだけ20種類ぐらい出てきて、ウンチクもある。このナスはこういうナスという、いわゆるブランドではないが、新潟のそういうものを伝える、そういう施設を作ったりすることによって、よりブランド力って上がるのではないだろうか。枝豆も今県がやっているが、枝豆の提供の仕方とかそういうので、黒埼茶豆のことを一生懸命ブランディング、宣伝しているというか、やっているところがあるので、そういうのと一緒になってやれないか。それも県と政令市という立場があって、なかなか一緒にはならないのだけれど、そういうことを一緒にやれば、ブランド化がもっと進むのではと思う。

大坂政策監

- 観光というより MICE という観点になるかと思うが、やはり外から人を呼び込むことで、域内にお金を落としてもらって、それを経済活性化につなげていくというのは、まさに人口減少の中で域内消費だけではなかなか経済成長していかないの、そういった視点は大事だと思っているし、新潟市も観光・国際交流部というところで取り組んでいる。一方でコロナ禍の中でなかなかそういう大規模な会議・大会が開催しづらい、そしてオンラインというのは非常に便利なもので、集まる必要がないという言い過ぎかもしれないが、仕事もスタイルも変わりつつある中で、厳しい状況ではあるが、そこは市としても引き続き力を入れていきたいと考えている。

それから、県との連携という部分では、詳細には存じ上げていないが、当然連携できるところは、連携しながら、ただ一方で政令市と都道府県という部分で、どうしても役割が分担されてしまう部分があるので、そこは上手に折り合いをつけながら進めていきたいと考えている。

上村委員

- 最初の方にこれからのビジョンの具体策として、かなり出尽くした感ではないが、そういうのがあってというようなお話もあったが、委員の皆様のお話を伺っていると、やはり個別具体的な事業なり、産業なりとの連携ではもっといろいろなものが出てくるかなと拝聴していた。例えば広域ビジョンという形で見えていく視点も必要だが、例えば分野ごとに特定の産業とか、一定の企業とかと懇談会をしながら、具体的な何か提案ができないかということ、課なり部なりでやっていると思うが、これからの将来を見据えた形での何か企画、政策というような、会議などが持てればもっと具体的ないい案が出てくるのかなという気がした。

我々大学も産学連携ということで、いろいろな企業と連携をさせていただくが、それは当然、大学との連携ではなくて、特定の先生、特定の強みを持った先生たちとの連携というこ

とになって、結局個別具体的なところをしていかないと、なかなか地に足がついた連携ができないというのが現状なので、先ほどから出ている、新潟の強みを活かしたこれからのビジョンの作成については、もう少し細かい部分に落とした議論があってもいいのかなという気がした。

それとは別に少し気になった点がいくつかあり、例えば、圏域全体での生活関連サービスの向上という点が先程挙げられていたかと思うが、今連携しているところはそれぞれ自治体ごとに抱えている問題点が違うと思うが、それをどう補っていくのかというのが、重要だというのは、まさにその通りだと思う。とりわけ過疎化が進んでいるところとか、そういったところでは、例えば図書館が近くにないというような話もあったが、最近では図書館が移動で、バスみたいなことでやっているというのもあったが、やはりそうした設備を持てるかというのは、自治体だけでやっぱりきついところがあると思うので、広域連携で何かできるというのではないかなという気がしていた。

例えば、自治体がやる話ではないのかもしれないが、買い物に行けない買い物弱者の方たちに対して、移動バスで商品を届けるようなサービスというか、そういった支援をしているような人たちがいるというのを、報道で見たことがあるが、例えばそういうような支援をそれこそ広域連携の自治体でできないかというの、1つ考えていただけると、ありがたいなという気がした。

小野統括政策監

- おっしゃられる通り、それぞれの市町村で持っている課題が違うというのは確かである。事業ごとに参加する参加しないというのは、構成市町村で選べる部分もあるので、構成する市町村にお願いしているのが、まずは、それぞれの市町村の持っている課題や、困り事というのを率直に皆さんで出し合いませんかと、その中で何か出来る事があるかどうかというのは、広域の視点で検討していきましょうということで、近隣の構成する市町村の皆様には、お声かけをしているところである。そういった個々の細かいところの課題からまた新しい事業が見つけていければと思っているのが1点と、逆に広い視点ということで、時代の流れとしましては、DXやSDGsという考え方があるが、そういった面で、先ほど環境の話、電力の話もあったが、そういったことも何ができるかという広い視点でも、また何か検討していければと思っている。

○ 閉会